

## 次期の見通し

平成 16 年度の販売電力量は、前年度の冷夏暖冬による冷暖房需要の減少の反動に加えて、景気回復に伴う産業用需要の増加が予想されることから、前年度に比べて 2.2% 増の 2,820 億 kWh を見込んでおります。

売上高については、こうした販売電力量の増加を受けて、連結で 5 兆 300 億円程度、当社単独で 4 兆 8,900 億円程度になるものと見込んでいます。

経常利益については、原子力プラントの定期点検台数の増加や前年度未完了であった点検・補修工事の実施などによる修繕費の増加、原油価格の上昇による負担増などが見込まれるものの、原子力発電量の増加に伴って燃料費が大幅に減少することに加えて、設備投資抑制による減価償却費の減少をはじめ業務運営全般にわたる効率化・コストダウンを引き続き進めることにより、経常利益は、連結で 4,100 億円程度、単独で 4,000 億円程度、当期純利益は連結で 2,650 億円程度、単独で 2,600 億円程度になるものと考えております。

### < 連結 >

売上高	5 兆 300 億円程度
経常利益	4,100 億円程度
当期純利益	2,650 億円程度

### < 単独 >

売上高	4 兆 8,900 億円程度
経常利益	4,000 億円程度
当期純利益	2,600 億円程度